

東北地方 3か月予報

(6月から8月までの天候見通し)

平成16年5月25日

仙台管区気象台発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の実現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

この期間の平均気温は平年並、降水量は平年並が多いでしょう。

6月 オホーツク海高気圧や前線の影響で天気がぐずつき、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

気温は平年並、降水量は平年並が多いでしょう。

7月 低気圧や前線の影響で天気がぐずつき、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。高気圧に覆われ晴れて暑い日もある見込みです。

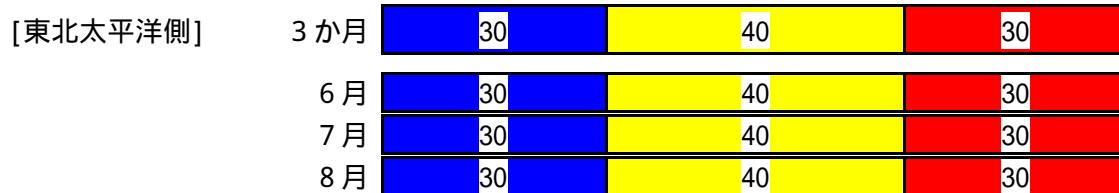
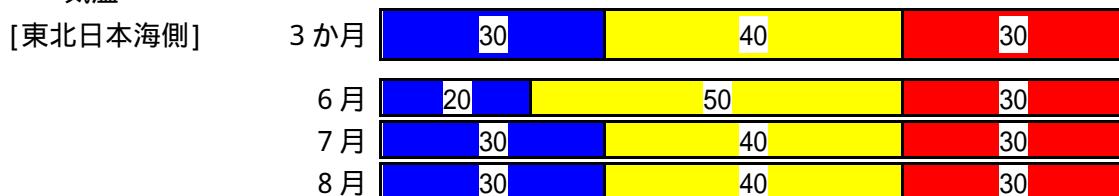
気温は平年並、降水量は平年並が多いでしょう。

8月 高気圧に覆われ平年と同様に晴れの日が多いですが、寒気や前線の影響で天気がぐずつく時期があるでしょう。

気温、降水量共に平年並でしょう。

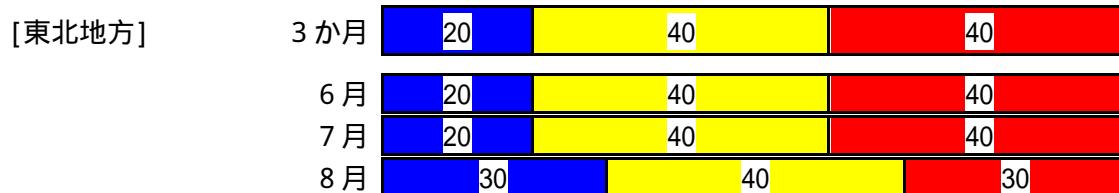
<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

<<気温>>



 低い  平年並  高い

<<降水量>>



 少ない  平年並  多い

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日14時30分発表 次回は5月28日

3か月予報：6月24日(木曜日) 14時00分

なお、暖候期予報として発表していたこの夏(6月～8月)の予報については、今回の3か月予報等最新の予報をご利用下さい。

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 平年値(月・3か月平均気温、降水量)

	気温()				降水量(mm)			
	6月	7月	8月	6~8月	6月	7月	8月	6~8月
大船渡	17.3	21.0	23.0	20.4	171.5	170.3	198.6	546.4
新庄	18.7	22.3	23.9	21.6	131.0	185.6	174.5	491.1
若松	19.8	23.4	24.8	22.7	115.7	160.1	131.0	406.9
深浦	17.2	21.3	23.1	20.5	109.4	146.0	157.4	411.1
青森	17.0	21.1	23.0	20.4	82.2	102.6	129.3	314.1
むつ	15.6	19.6	21.7	18.9	109.0	122.8	140.4	372.1
八戸	16.1	20.2	22.3	19.6	99.2	117.1	139.8	356.1
秋田	18.8	22.8	24.5	22.0	127.5	178.1	181.9	487.6
盛岡	18.2	21.8	23.2	21.0	114.9	165.7	177.8	458.4
宮古	16.0	20.0	22.2	19.4	117.3	139.2	180.8	437.2
酒田	19.3	23.2	24.9	22.5	128.1	186.1	175.8	490.0
山形	19.5	23.2	24.6	22.5	102.6	143.9	148.8	395.3
仙台	18.3	22.1	24.1	21.5	137.9	159.7	174.2	471.8
石巻	17.7	21.3	23.5	20.8	111.6	131.0	127.0	369.6
福島	19.9	23.5	25.2	22.9	118.1	144.8	144.3	407.2
白河	18.4	22.0	23.3	21.2	167.6	186.8	228.2	582.7
小名浜	18.3	21.7	23.9	21.3	149.8	120.5	141.7	412.0

(2) 1971~2000年のデータに基づいた6~8月地域平均の気温、降水量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要素	予報対象地域	6月	7月	8月	6~8月
気温平年差()	東北地方	-0.6~+0.2	-0.1~+0.6	-0.3~+0.6	-0.4~+0.3
	東北日本海側	-0.5~+0.2	-0.2~+0.4	-0.5~+0.5	-0.4~+0.1
	東北太平洋側	-0.5~+0.2	-0.3~+0.8	-0.3~+0.5	-0.5~+0.5
降水量平年比(%)	東北地方	82~118	89~117	73~117	82~110
	東北日本海側	71~105	83~123	74~107	84~111
	東北太平洋側	88~111	85~114	67~120	85~112

(3) 接近する台風の平年値

	6月	7月	8月
東北地方	0.1	0.3	0.7

<参考資料(利用上の注意)>

- (1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。
- (2) 確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率(階級の定義から各階級とも同じで33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。
- (3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 3か月予報(6~8月)解説資料

平成16年5月25日 仙台管区気象台

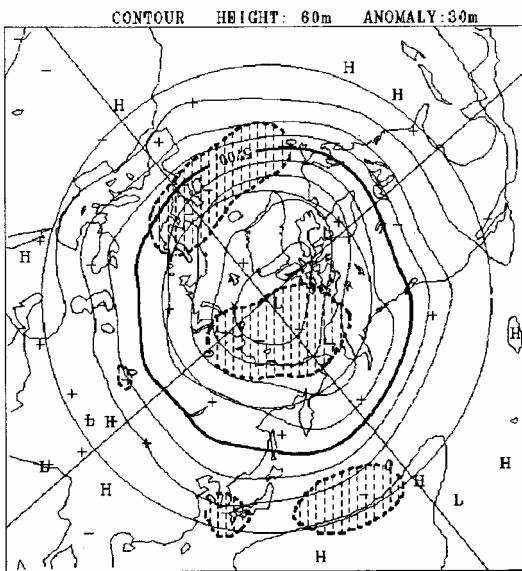
1. 数値予報(アンサンブル予報)による大気の流れの予想

3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図(右図):

予想図は、極付近が負偏差で、日本付近も西日本から東シナ海にかけてと日本の東海上で負偏差となる他は、広く正偏差に覆われる。日本の西で気圧の谷が強まるため、低気圧や前線の影響を受け易い。日本の南の亜熱帯高気圧は平年より強いが、オホーツク海には気圧の尾根があって、オホーツク海高気圧も予想される。

3 MONTH MEAN (6/1~8/31) N:31

500hPa HEIGHT AND ANOMALY



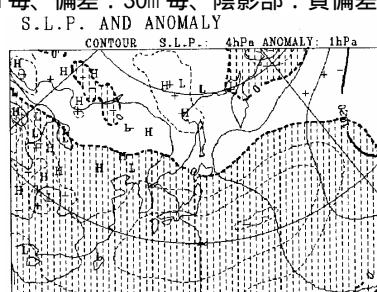
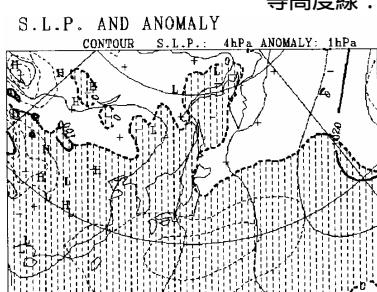
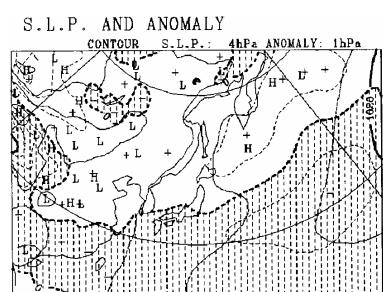
月別の地上気圧と偏差の予想図(下図。なお、予想図の精度は予想対象期間が先になるほど低下します。):

予想図は、日本の南で負偏差が強いが、西部熱帯太平洋域の海面水温が高いと予想されること等から太平洋高気圧は平年並か平年より強いと考える。

6月:日本の南岸は低圧部で、低気圧や梅雨前線の影響を受け易く、オホーツク海高気圧も明瞭。

7月:6月に比べオホーツク海高気圧は不明瞭だが、低気圧や梅雨前線の影響を受け易い。

8月:日本の南で負偏差が強いが、割り引いて考える。



月別の地上気圧と偏差の予想図(左から6月、7月、8月)

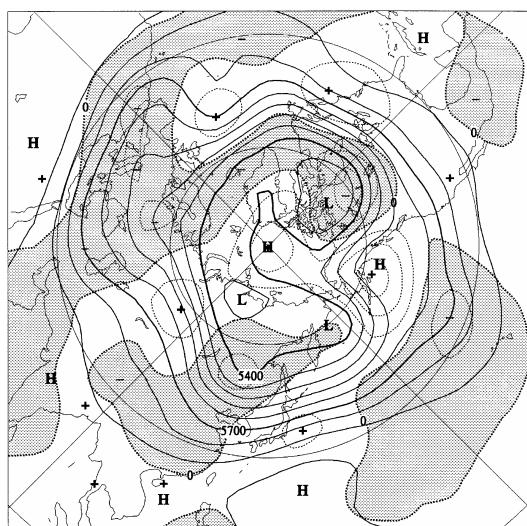
等圧線: 4hPa毎、偏差: 1hPa毎、陰影部: 負偏差

2. 循環場の特徴

5月(1~20日): 500hPa高度では、北半球中・高緯度帯で大西洋から日本付近にかけ正偏差域と負偏差域が交互に並び、極東域では東シベリアから華南にかけて負偏差が広がるが、日本付近は正偏差に覆われた。また、日本の南の亜熱帯高気圧は平年より強かった。

日本の西が気圧の谷となったため、南から暖かく湿った空気が流れ込んで高温となつたが、低気圧や前線の影響を受け易く、曇りや雨の日が多かった。

偏西風の流れは順調で、上旬は低気圧や高気圧が数日の周期で通過したが、中旬は低気圧が短い周期で通過し、曇りや雨の日が続いて梅雨のはしりとなった。



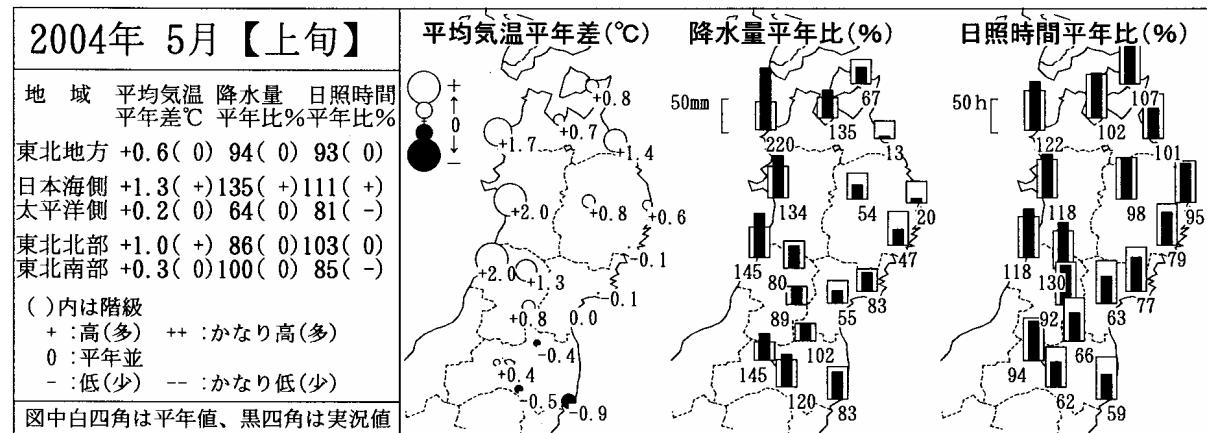
5月1~20日平均500hPa高度

等高度線: 60m毎、偏差: 30m毎、陰影部: 負偏差

3. 最近の天候経過

5月上旬：3～4日と9～10日は日本海を進んだ低気圧や前線の影響で曇りや雨となり、4日は秋田県で大雨により土砂崩れが発生した。また、5～6日にかけては日本の南海上に残った前線やオホーツク海高気圧の影響で、東北太平洋側の南部を中心に曇りや雨となったが、東北日本海側は概ね晴れた。その他の日は高気圧に覆われ晴れた。

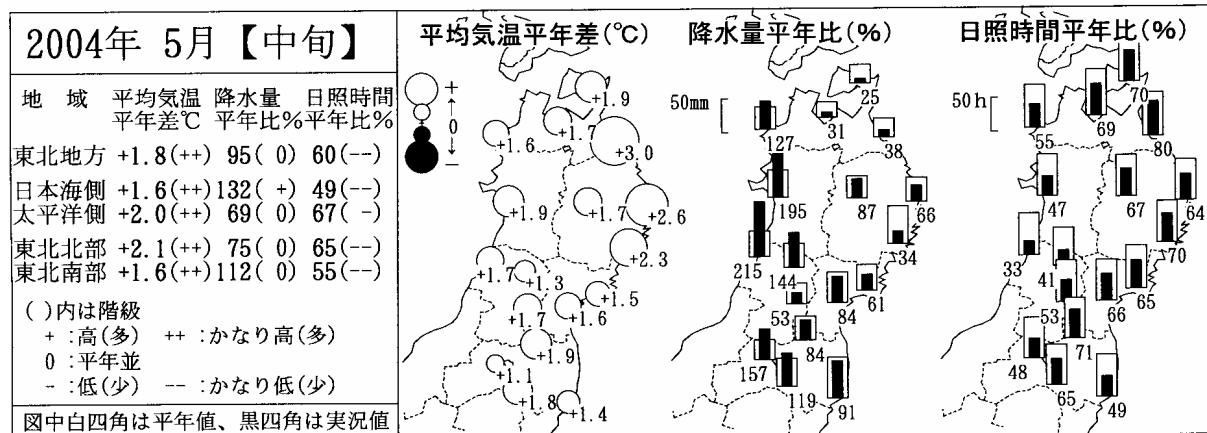
平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側で平年並。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。



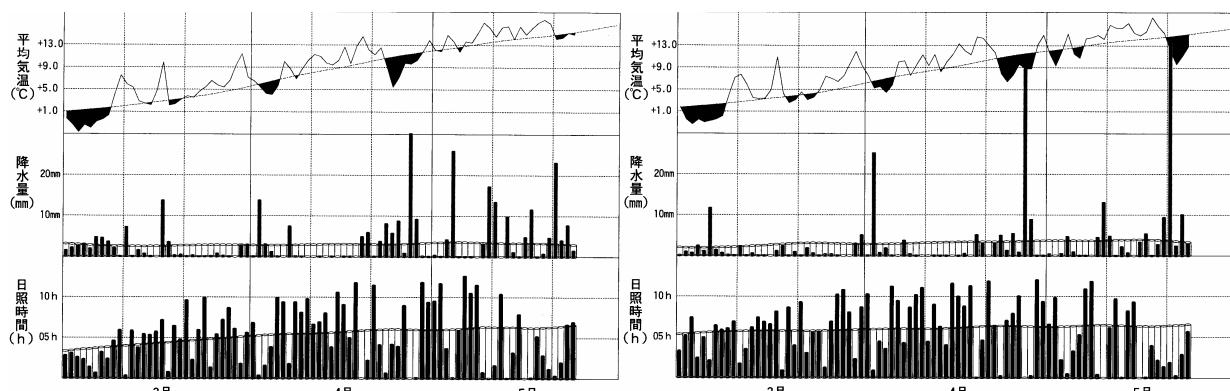
東北地方における5月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

5月中旬：低気圧や前線が短い周期で日本海を進み、曇りや雨の日が多くなった。また、19～20日は台風第2号が日本の南海上を北上し、日本の南に停滞していた前線の活動が活発化して曇りや雨となつた。

平均気温はかなり高い。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で少ない。



東北地方における5月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）



東北日本海側の日別経過図

東北太平洋側の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

4. 太平洋赤道域の海水温等の状況、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し

エルニーニョ監視速報（No.140）より抜粋。（気象庁ホームページ：<http://www.jma.go.jp/>）

太平洋赤道域の海面水温は、ほぼ平年並だった。海洋表層（海面から深度数百mまでの領域）水温に関しては、西経120度以東で負偏差、西経150度以西で正偏差が卓越していた。

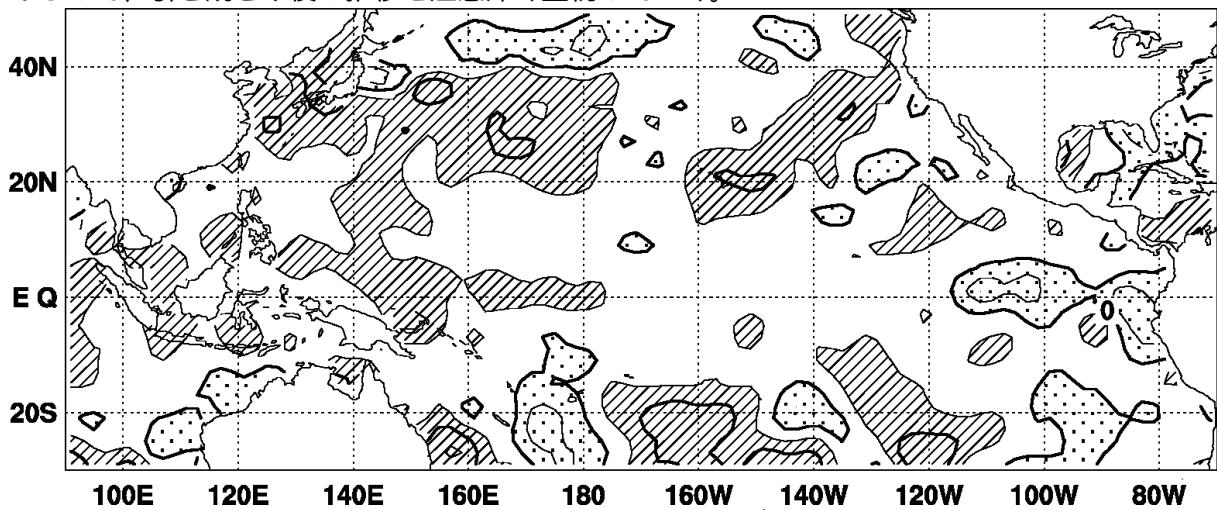
エルニーニョ監視海域の海面水温は、春から夏にかけて基準値（1961～1990年の30年平均値）に近い値をとり、秋には基準値よりやや高い値で推移するとみられる。予測期間中にエルニーニョ現象が発生する可能性は低い。

【解説】

4月の太平洋赤道域の海面水温は、中部・西部で平年より高く、西経115度以東で低かったが、1を超える偏差は正負ともに見られず、ほぼ平年並であった（下図）。赤道付近の大気は、2004年に入って、平均的には日付変更線付近を中心に下層で東風偏差が卓越しているが、30～40日周期の短周期変動も活発である。海洋表層水温に関しては、西経120度以東を依然負偏差が占める一方、3月末の西風偏差によって励起された正偏差域が中部を東進しつつある。しかし、4月下旬から広い範囲で卓越している東風偏差がこの正偏差を弱めるようにはたらくことから、東進中の正偏差域が今後1～2か月のうちに東部に到達しても、監視海域の海面水温偏差を大きく増大させる可能性は低いと判断される。

エルニーニョ予測モデルは、監視海域の海面水温の基準値との差が春から夏にかけて次第に増加し、その後持続する傾向を示している。モデルは、監視海域の海面水温が夏以降に基準値より高い値をとると予測しているが、上述した太平洋赤道域の大気・海洋の実況を重視すると、モデルの予測値よりも若干低めに推移すると考えられる。

以上のことから、監視海域の海面水温は、春から夏にかけて基準値に近い値をとり、秋には基準値よりやや高い値で推移するとみられ、予測期間中にエルニーニョ現象が発生する可能性は低いと判断される。ただし、活発な大気の短周期変動により再び下層で西風偏差が強まる可能性もあるので、引き続き今後の推移を注意深く監視していく。



2004年4月における海面水温平年偏差()。濃い陰影部は海面水温が平年値より0.5以上高い領域を、淡い陰影部は平年値より低い領域を示す（平年値は1971～2000年の30年平均値）。

<参考資料>

平年の天気出現日数(日)

	6月		7月		8月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	14.3	12.0	14.6	12.6	18.1	15.8
雨の日	10.3	10.4	10.9	11.1	9.7	9.9

注：季節予報では、「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」をそれぞれ晴れの日、雨の日の目安として用いている。この2つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。なお、日照率は1日の日照時間を可照時間（太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間）で割った値である。